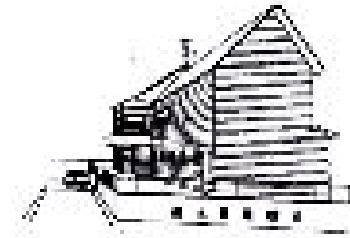


週報

2009年 3月 22日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

今朝の聖書から 3月29日には、静岡市議会議員選挙が行われます。投票権を行使しましょう。“選挙はつまらない”、“タレント候補ばかりだ”と思ってる兄姉はいませんか。確かに一票の投票に無力感はあると思います。日本に男女の成人による普通選挙が行われるようになったのは、第二次世界大戦の後です。体験がない私たちには、この普通選挙が実施されるにあたって、本当に大きな戦いがあったことを、忘れないようにしたいものです。民主主義者とその団体、自由主義運動がこの流れを支えました。沢山の犠牲も払われました。信仰者も多数参加しました。選挙形骸化を受け入れれば、その通りに政治も遠くなるでしょう。当たり前だと思っている“信教の自由”という歴史の背後に隠されている出来事にも、もう一度学びましょう。信仰者にとっての告白と確認はもっと重要なのです。選挙と同じように、適当に受け止めることはできるでしょう。しかしそのように、適当に受け止められた信仰は、まるで“教会の働きをたしなむ”程度のものにしてしまうのです。私の救いの中心だったものが、私の救いから離れ、神の世界の体験者であった私たちの毎日を、神から遠く離れた物にしてしまうのです。最初に受洗の恵みに預かった時の新鮮な思いを取り戻すことが必要になる時もあるのではないのでしょうか。これはイエス様の時代からそうでした。メシヤ(キリスト)という言葉はありました。パリサイ派と聖書が書いている人々も、この言葉を知っていました。しかし、当面は訪れない“来るべき方”がキリストだったのです。“当面は訪れない”のですから、メシヤの到来とは無縁になってしまいます。“やがてメシヤはおいでになる”というのが彼らの信仰生活の基本になってしまっていました。パリサイ派の教えと定めを守るのが信仰生活になってしまいました。神について語りながら神の救いとは無縁な物になっていました。今朝の箇所は“山上の変様”と言われる箇所です。弟子たちは、あったこともないモーセがどうして分かったのでしょうか。神様の世界を体験させて頂いたからです。主は、弟子達に天国のイメージと現実に神の国はそこにあることを、体験を通して教えられたのです。